

令和2年度 公共事業再評価調査

担当部/課名	都市整備部 道路建設課
--------	-------------

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着手 (5年) <input type="radio"/> 長期間継続 (5年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

I 事業概要

事業種別	道路整備事業	事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国補助 <input type="radio"/> 県補助 <input checked="" type="radio"/> 市単独					
事業名	油川新城線道路整備事業	事業箇所	青森市大字油川地内					
採択年度	平成 13 年度 (用地着手 平成 14 年度 / 工事着手 平成 18 年度)							
終了予定年度	令和 10 年度							
事業目的	<p>・本路線は、市道森林軌道廃線通り線から国道280号バイパスを結ぶ延長815mの幹線道路である。</p> <p>・市道森林軌道廃線通り線から国道280号バイパスに接続することにより、青森港方面からの交通の分散が図られ、安全で円滑な交通の確保が図られる。</p>							
主な内容	区 分	当初計画時	再評価時	増 減				
	① 計画延長	815.0 m	815.0 m	0.0 m				
	② 計画幅員	20.0 m	20.0 m	0.0 m				
	※事業量や総事業費の増減に係る説明等を記入。 ()							
事業費	(単位:百万円)							
		～H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	小計	R3年度～	合計
	○事業費	669	5	6	12	692 (a)	425	1,117 (e)
	うち①用地費	414	0	0	0	414 (b)	0	414 (f)
	②工事費	160	5	6	10	181 (c)	424	605 (g)
	③その他	95	0	0	2	97 (d)	1	98 (h)

II 評価指標及び項目別評価

1 事業の進捗状況

事業の進捗状況	計画全体に対する進捗	
	○事業費割合	62.0 % [(a)/(e)]
	うち①用地費	100.0 % [(b)/(f)]
	②工事費	29.9 % [(c)/(g)]
	③その他	99.0 % [(d)/(h)]
説 明	<p>・平成27年度に用地買収が完了し、計画的に工事を進めている。</p> <p>・東北新幹線との交差部分については、平成18年度から19年度にかけて施工済みである。(施工は鉄道運輸機構、青森市は負担金のみ)</p>	
問題点 解決見込み	<p>・事業を進めるに当たっての阻害要因は特にはない。</p>	
事業効果 発現状況	<p>・部分供用なし</p>	

2 社会経済情勢の変化

必要性	<ul style="list-style-type: none"> 青森港方面から新青森駅及び浪岡、弘前方面への移動距離及び時間短縮が見込める。また、交通の分散が図られることから、早期完成が望まれる。 国道280号と国道280号バイパスを結ぶ県道234号津軽新城停車場油川線は、住宅密集地を經由し幅員が狭隘で交通量が多いため、地域住民の安全・安心確保をするため、代替路線として整備する必要がある。
適時性	<ul style="list-style-type: none"> 青森港方面から新青森駅及び浪岡、弘前方面へ向かう大型車両の交通量が多く、ガーラタウン付近交差点において渋滞が発生しており、その軽減が期待できる。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 本路線の整備により青森港方面から新青森駅、浪岡、弘前方面への交通の分散が図られ、安全で円滑な交通が確保できる。

3 費用対効果の分析

区分	主な項目	
	費用項目(C)	① 事業費
	② 維持管理費	10 百万円
	総費用	1,464 百万円
便益項目(B)	① 走行時間短縮便益	545 百万円
	② 走行経費減少便益	97 百万円
	③ 交通事故減少便益	49 百万円
	総便益	691 百万円
費用便益比(B/C)	費用便益比(B/C)	0.472
	補正費用便益比(B/C* α)	0.674

※地域修正係数(α):1.429(青森地方生活圏)
 ※費用対効果分析の根拠等
 (・「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針」(平成21年1月、国土交通省)
 ・「費用便益分析マニュアル」(平成30年2月、国土交通省道路局、同都市・地域整備局)
 ・「公共事業事後評価制度の導入等に関する提言」(平成22年4月、青森県公共事業評価システム検討委員会))

残事業の投資効率性

区分	主な項目	
費用項目(C)	事業継続の場合	1,464 百万円
	事業中止の場合	1,130 百万円
	差額	334 百万円
便益項目(B)	事業継続の場合	691 百万円
	事業中止の場合	0 百万円
	差額	691 百万円
費用便益比(B/C)	事業継続の場合	2.069
	事業中止の場合	0.000

4 コスト縮減や環境配慮などへの検討

コスト縮減等	<ul style="list-style-type: none"> 路盤材、舗装材に再生材を使用し、環境負荷の低減とコスト縮減に取り組んでいる。
--------	--

III 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続実施 <input type="radio"/> 計画変更して実施 <input type="radio"/> 事業中止 <input type="radio"/> 事業休止
評価理由等	本路線の整備により、渋滞箇所を迂回することが可能となり、青森港方面から新青森駅、浪岡方面へのアクセスが向上することから、着実に事業を推進し、早期の事業効果発現を図る必要がある。